

# プログラム

## 講演 1. 「電気の精」を紐解く

田中國昭 （千葉大学）

電気の精に描かれている科学者の紹介

## 2. 「電気の精」リトグラフと「アラゴー」の円盤の行方

松本栄壽 （日本計量史学会）

初版 35 枚と初数 125 枚の行方からパリの科学の原点を追う

## 3. 「電気の精」と科学技術史

笠 覚暁 （金沢工業大学）

科学技術稀観書による教育

## パネル討論

司会 鈴木 浩 （日本経済大学大学院）

## 略 歴

田中國昭（たなか くにあき）

千葉大学名誉教授。工学博士、電子情報通信学会フェロー。1939 岐阜県生。1964 東京工業大学大学院修士課程修了、1984 千葉大学教授（工学部）、2004 退職。この間、メキシコ国立工科大学、ロンドン大学客員教授。2004 岐阜県研究開発財団の科学技術コーディネーター（常勤）、岐阜県看護大学科学史担当（非常勤）。現在、輪之内町観光委員長、輪之内学研究会代表。著書『革新するエレクトロニクス』共著、『電気機器論』他。



松本栄壽（まつもと えいじゅ）

日本計量史学会理事。工学博士。横河電機(株)を経て現職。「学芸員」資格。米国メリーランド大学歴史学科学部および大学院「技術史」講座単位取得。1993-4 年、2003-4 年米国スミソニアン協会・米国歴史博物館客員研究員。計測自動制御学会会員、電気学会（電気技術史技術委員会委員）、ISA 会員、IEEE 会員。著作に「遙かなるスミソニアン」、訳書に「スミソニアンは何を展示してきたか」他。



笹 覚暁（ちく かくぎょう）

金沢工業大学特任教授、金沢工業大学ライブラリーセンター館長、金沢工業大学建築アーカイヴズ研究所顧問、工学博士。マサチューセッツ工科大学客員研究員、米国議会図書館国際研修員、日本建築学会理事、同図書館長、NPO 建築文化継承機構理事、国立近現代建築資料館運営委員会座長、建築空間デジタルアーカイブス(DAAS)運営委員会委員長など歴任。日本工学会フェロー。著書：「建築の誕生 - ギリシア・ローマ神殿建築の空間概念」他。訳書：「クルフト・建築論全史 I」「クルフト・建築論全史 II」



鈴木 浩（すずき ひろし）

日本経済大学大学院教授。研究科長。メタエンジニアリング研究所長。工学博士。三菱電機(株)、米国ゼネラルエレクトリック (GE) を経て現職。電気学会フェロー、前電気技術史技術委員会委員長、日本工学アカデミー会員、IEEE ライフフェロー。著書に、「エネルギー新時代」、訳書に、「ブレイクスルー」他。



## 「電気の精」とは

1937年に開催されたパリ万国博覧会で、ラウル・デュフィはフランス配電会社のパビリオン「光と電気館」に10×60メートルに及ぶ壁画「電気の精」を制作した。1937年5月24日のことである。

その後、この絵は、パリ市近代美術館に移され現在も展示されている。また、10枚組となるカラーリトグラフが350セット作られている。

ラウル・デュフィは翌年レジオン・ドヌール勲章を受章した。



パリ市近代美術館（右側の建物）

# 日本におけるカラーリトグラフ

## 所蔵が確認されているところ

○伊丹市立美術館	展示はしていない
○岡崎世界こども美術館	展示はしていない
○金沢工業大学	展示している
○東京電力電気の史料館	展示はしていない
○東京プリンスホテル	展示はしていない
○東北電力三居沢発電所百年記念館	展示している
○横河電機	展示はしていない
○早稲田大学理工学部	展示している

## 所蔵が確認されているが特定できていないもの

- 軽井沢地区 個人の別荘 いくつか
- 伊勢志摩のホテル

## 参考とした情報

### 展示会

- ・ 2009 年 4 月 三鷹市民ギャラリー
- ・ 2014 年 6 月 渋谷東急本店 BUNKAMUA ザ・ミュージアム

### 放映

- ・ 2014 年 7 月 13 日 NHK 日曜美術館

### 新聞

- ・ 2016 年 3 月 13 日 日本経済新聞

### 雑誌

- ・ 1996 年 4 月号 電気学会誌
- ・ 月刊誌「東京人」探検 電気の史料館

### 出版物

- ・ 電気の精とパリ A. Beltran, P. Carre、  
松本栄壽、小浜清子訳、1999 年 12 月玉川大学出版部

### 研究会

- ・ 宮地巖、「ラウール・デュフィーと電気の精」電気学会電気技術史研究会  
1996 年 2 月 29 日